技 術 概 要 書 （様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災（○）　維持管理　環境　コスト　ICT　品質　（該当分類に○を付記）		
技術名称	サイドブロック	担当部署	開発課
NETIS登録番号	QS-140005-A	担当者	島　佳奈子
社名等	インフラテック株式会社	電話番号	050-3085-9434

技術の概要

１．技術開発の背景及び契機

小口止工は、河川護岸やブロック積み擁壁などの構造物の両端が侵食され破壊されるのを防護するために、コンクリートや矢板、杭などで横断方向に仕切った構造物のことです。現状では、現場打ちコンクリートで構築することが多いのですが、型枠や支保工の関係でブロック積みより先に施工され、幅30cmの小口止めは擁壁高さが高くなればなるほど不安定で、作業上安全と言えるものではありませんでした。また、小口止めコンクリートの養生が完了し型枠を脱型するまでは、小口止め近傍のブロック積みができないという工程的な制約もあります。
そこで、小口止工をプレキャスト化し、安全性の向上と工期短縮を目指し開発いたしました。

２．技術の内容

前面、背面部分をコンクリートブロック、側壁部は現場打ちとの付着が良好な「KCスタンドフォーム（FRC製埋設型枠)」を使用した構造となっています。KCスタンドフォームの長さ調整（現場加工可能）により、現場の形状に合わせた小口止工を構築することができます。1段の高さを50cmに設定しており、隣接するブロック積みとほぼ同時に積み上げることが可能です。また、サイドブロックは1個の重量が100kg程度なので、積みブロックを施工する重機で施工可能です。

3. 技術の効果

従来、現場打ちで施工されていた小口止工で必要だった型枠の設置、撤去が不要となり、工期短縮が可能です。また、ブロック積みと同時施工が可能なため、高所作業が軽減でき、安全性、施工性が向上します。

４．技術の適用範囲

・河川護岸及びブロック積擁壁工の小口止工、横帯工
・適用勾配　1:0.3～0.5
・適用寸法　幅300mm

５．活用実績

国の機関　286　件　（九州　283件　、九州以外　3件　）
自治体　10325　件　（九州　8084件　、九州以外　2241件　）
民　間　416　件　（九州　361件　、九州以外　55件　）

6. 写真･図･表

図1　製品規格

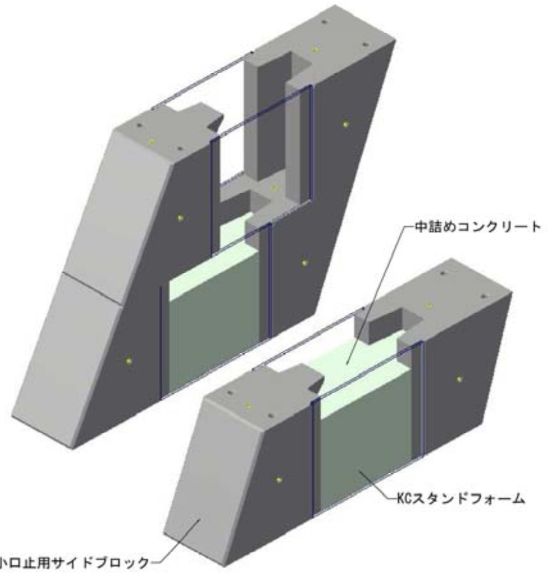

図2　構造

写真1　施工現場写真